

平成29年度第1回ごみ減量化・資源化推進検討委員会 議事要旨

日時 平成29年11月21日（火） 10時20分～12時00分

場所 田川市役所本庁1階 大会議室

1. 開会

【市長あいさつ】

2. 委嘱状交付

【委員名簿順に市長から各委員へ交付】

3. 会長・副会長の選出

（委員）

事務局からなにか案はありますか。

（事務局）

事務局案としましては、会長に久永委員、副会長に松本委員をお願いしたいと考えております。委員の皆様いかがでしょうか。

（委員一同）

異議なし。

（事務局）

ありがとうございます。ご承認いただきましたので、会長は久永会長、副会長は松本副会長に決定いたしました。よろしく願いいたします。

会長、副会長から一言ずつ挨拶をお願いします。

【会長、副会長挨拶】

4. 諮問

【市長より委員会へ諮問】

【市長公務により退出】

5. 資料確認、委員及び事務局職員の紹介、議題

【配付資料の確認】

【会長、副会長、委員、事務局の順で自己紹介】

議題(1) スケジュール（案）について

（事務局）

【資料1：田川市ごみ減量化・資源化推進検討委員会スケジュール（案）により説明】

（会長）

スケジュールをご覧になって分かるとおり、一番のターゲットは平成34年にごみ処理場が稼働するという前提のもとに、田川市としてのごみ減量化をどのようにシステム的に推進していくか、また、場合によってはリサイクルセンターみたいな施設をイメージするなど、どういうふうなイメージで田川市がやっていくかソフト面を中心に、出来るだけ早めに考えて意見を出せばそれなりにごみ処理施設及びリサイクル関係の施設に影響が及ぶのではないかと思います。できるだけ議論を早めに、皆さんの意見をできるだけ吸い上げていけたらと思っております。それでは、事務局から説明を頂きましたが、何か意見等ございましたらお願いします。

（委員）

平成31年度以降のところは、1つの枠になっていると思うのですが、可能であれば31年度から建設するものもあるのでその間に枠を増やしてほしい。このスケジュールの記載方法では、平成30年度からいきなり平成34年度にとんでいるように見えてしまう。

（事務局）

それでは、そのようにさせていただきます。

（会長）

前回の委員会から、約2年半空きましたが、区長会からなにか意見等ございませんでしょうか。

（委員）

今分別は何分別？

（事務局）

直営で回収しているものは6分別で、それ以外は清掃センターで各種分別を行います。

(委員)

分別を細かく行っていけば減量化は進むと思う。直方市を一度見に行ったことがあるが、とてもきれいに分別されていた。あのようになれば、また違うのではないかと思います。

直方市は分別を徹底していた。汚れが残っていたら回収しないとか。そういったことは、市民のモラルの問題にもなるが、やってもらわないとね。

(委員)

近所の集積箱を見に行くと、違反シールを貼られているゴミ袋を見ることがある。中身を見てみると、可燃ごみの中に缶が入っていた。市民、特にアパートなどに住んでいる若い人かな。車からごみを捨てている人も見たことがある。そういったルールを守っていないゴミ出しをしている場合は、ごみを回収しないというのを徹底していかないとこのような状態が続くのではないかと思います。私の組では、張り紙をして啓発をしているが、他の組では毎年組長が代わるころもあるから、ゴミ出しの指導などをちゃんとできないこともある。

(委員)

以前の委員会の委員をしていたが、その時にごみの分別の種類を増やすと聞いていたがその話は現在止まっているのか、進んでいるのか。

(会長)

事務局から案は出しますが、市民のごみの減量に対する意識がだんだん下がってきているので毎年色々な方法で推進、アナウンスしていかないといけないと思っている。できるだけ、先端の組織である区長会含めいろいろな方にできる範囲内で最大限のことを、という議論をしていただければと思っています。

(委員)

隣組に入っていない方は、市政だよりが届かないから見てないんですね。それで以前市政だよりを渡したことがあるが、やはり意識が低いように感じられる。結局集積箱も近所の人が片づけるという現状です。区長会の中でも隣組に入る、入らないの問題はありますが、市長がまちをきれいにということを言っているのもう少しそういったことを誰もがみれるように啓発されるように、市役所などに美化運動を行っているという啓発の看板を設置するなどして、隣組に入っていない人たちに対しても啓発をしないといけないだろう。また、近くの借家が空き家になっていて、そこに草が生えている。そ

ういったところにごみを捨てる人が多い。それを私たちが片づけるとまた誰かがごみを置いていく。だから、1～2週間片づけずにそのままにしておくようにしたが、それが良いことか分からない。今回このような委員会を立ち上げたのであれば、田川市がまちをきれいにしていくというのをもう少し市役所に大きな看板掲げ、イメージを市民のかたに持っていただかないといけないと思う。

また、私は他の団体でごみを減らす取り組みをしているが、生ごみの水切りを行うことは一人ひとりが行うことができることだと思います。だから、まずは水を切ってごみを出しましょうということ、そうすれば、ごみを出す時も軽くていい。どこかの自治体では、生ごみを新聞紙に包んで出しているところもある。そういった、他の自治体で取り組まれている情報が私たちに対して少ないと思います。まず私たちにできることを行っていくべき気だと思います。

(会長)

ありがとうございます。市民一人ひとりの意識の中でごみの分別をやっていく問題と、田川市全体としてどういうふうに推進していくかという2つの問題を並行しながら議題を立ち上げて議論していきたいと思います。

(委員)

普通のごみと資源になるごみというのがなかなか把握されていないと思います。普通の生ごみと一緒にペットボトルが入っていたり、資源として使えるものが燃えるごみの中に入っています。小学校などでは、ペットボトルキャップを子供たちが集めて資源として使っているのはいいのですが、まず学校現場が子供たちに資源ごみがどういうものか、リサイクルできるものはどういうものか、という環境学習を行っていきべきだと思います。やはり、子どもさんが家に帰って親に進言できる立場にあるので、子どもたちにまず知識として与えることができる環境学習を行っていきべきだと思います。

(委員)

スーパーなどに、トレーなどをきれいに洗って持って行っていますが、資源にもなるし、なにより自宅のごみが減ります。人目に付くところに回収ボックスがあり、中にはきれいに洗われたものしか入っていないので、汚れたままのものは入れにくいと思います。だから、資源、ごみの回収も見える形でしないとルールを守らないひと、分別しない人が出てくる現状にあると思います。

(委員)

様々な意見が出たと思います。まだまだ意見が出るとは思いますが、引き続き意見を出してもらいながら、これらの意見について、市の方で様々な対応策等を検討していたきながら、少しでも良い方向に持っていかれたらいいのではないかと思います。

議題(2) 田川市ごみ減量化・資源化推進検討委員会の経過について

(事務局)

【資料2：田川市ごみ減量化・資源化推進検討委員会（第1次～第3次）の経過、
別紙1：田川市のごみ減量化・資源化に関する提言（平成6年4月4日）、
別紙2：田川市のごみ減量化・資源化に関する提言（平成15年3月17日）
により説明】

議題(3) 田川市におけるごみの現状と課題について

(事務局)

【資料3：ごみ処理施設、し尿処理施設、最終処分場の建設予定地、
資料4：田川市におけるごみの現状と課題（ごみ量の推移、既存の施策、懸案事項等）、
参考資料3：田川市一般廃棄物処理基本計画（平成26年3月）、
参考資料4：食品ロス削減に係る啓発物により説明】

(会長)

総じてごみの排出量が多い、最近若干増えているという意識、住民のごみの減量に対する意識が少しずつ弱まっているというのが資料4右上の図から読み取れます。リサイクル率も、横ばいもしくは下がっているという現状です。そういう中で、事務局として懸案事項を3つ程挙げていただいて、現在検討している事業をとして、食品ロス削減、資源拠点回収事業、段ボールコンポスト購入費補助金の3つ挙げていただきました。この中から、資源拠点回収事業（案）について引き続き事務局のほうから説明をお願いします。

議題(4) 資源拠点回収事業（案）について

(事務局)

【資料5：資源拠点回収事業（案）の概要により説明】

(委員)

資源拠点回収事業案の開始時期についてですが、平成30年度に施設を建設し、受け入れ態勢が整い次第開始する予定となっていますが、いつぐらいから建設予定となっているのでしょうか。

(事務局)

総合計画事業というのがあります、その計画事業に挙げているところです。これから、予算の話し合いになっていきますので、そこで予算がとおって議会が承認していただければ、来年度に建設が出来ることとなります。しかし、まだその段階まで来ておりませんので、委員会からも要望としてあげていただければと考えております。

(委員)

直方市に視察に行ったときに気になったことですが、最近、行橋市に視察に行ったことがあります、そこは物産展やコンビニの広い敷地など見えるところにごみの収集場所を作っていました。やはり、見えないところではなく見えるところ、目に届くところに置いた方がいいと思います。田川市の資源拠点回収も、これからなのであれば市役所近くの体育館跡地など、もう少し市民が行きやすく、ここに捨てに行こうと思える発想になるようにしてもらいたい。ペットボトルのごみ出しでも、市民が骨を折ってラベルをはがすなど分別を行っているが、それがどれだけ市民に還元されているか目に見えない。地域で資源回収を行っているが、少しですがそれは地域に還元され、とてもありがたい。だから、してもしなくても一緒というやり方ではなく、リサイクルはひと手間もふた手間もかかるが、する人としらない人の差別化をもう少ししていただけると市民の意識がもう少し高まるのではないかと思います。

(会長)

市民の意識を高めることについてご意見をいただきました。また、回収場所を何処にするか様々な意見があると思いますが。環境対策課も今年から市役所本庁に移転し、市民に近いところに窓口ができたかなと思う。それと同じように、田川市は交通手段が厳しくなっており、コンパクトシティを目指さざるを得ない中で、ごみやリサイクルに関する窓口も市民に見えるところ、視覚で動かしていく方が意識向上に重要ではないかと思えます。ただし、場所については街中になってしまうとどうしても難しい問題が多々あり、つい既存の場所に安易に考えがちですが、そういった点も本委員会でできるだけ、中間報告が出る前に議論をして、その点についても答申ができればと思っています。

(委員)

資料に載っている写真の予定地の住所は川宮ですかね。ここは、案外行きやすくていいんじゃないかと思います。場所も広いし。

(委員)

最終的な収集場所はここでいいと思いますが、中間の収集場所を別に協力してもらえるところをお願いするのはどうでしょうか。

(会長)

いろいろな案を出していただきましたが、最終的にはもう少し議論をする中で本委員会の結論を出したいと思います。

ごみの中で一番多いのが容器包装廃棄物で、体積で6割、重さで4割を占めています。これが起因となりごみ減量化が始まったのですが、今後に向けては生ごみ、その他が今後の1つの目玉になるかと思います。そういったことを含めながら現在の状況と今後に向けて議論進んでいければと思っています。

(委員)

テーブルトップについて提案ですが、食べ残しの量を金額に換算し、一人当たりどれぐらいの金額捨てているのかが分かると参加する人が増えるのではないのでしょうか。

(事務局)

国などのデータでそのようなものがあれば、提示させていただきます。

(委員)

大まかなデータでいいので、できればよろしくをお願いします。

(委員)

バイキングも食べ残しの原因だと思います。

(委員)

中学校の給食が結構余っていると聞きました。中学1年生と3年生では、体格も違うので食べる量にも差が出ますし、給食も残ると思います。こういったところも、何か取り組みをして改善していかないといけないと思います。

(会長)

田川市では教育委員会になるとしますので、連携しながらになりますね。

議題(5) 視察（次回）について

(事務局)

【視察の趣旨、日時、場所について説明】

(会長)

事務局から、案として日時及び視察場所について提案をしていただきました。まず日時ですが、1月11日木曜日で事務局から提案がありましたが一覧でしょうか。

(委員一同)

はい。

(会長)

それでは、次に場所ですが、大木町の施設とみやま市の現在建設中のバイオマス施設関連の視察を予定しています。ひとつの考え方のベースとして視察を行いたい考えです。2年前に視察に行かれた方もいらっしゃいますが、直方市とはまた違った視点での考え方をベースにしています。下水道もごみ焼却場もない施設ですので、田川市と必ずしも一致するものではありませんが、あくまでも考え方の幅を広げるという意味で視察をする価値があると思います。

(事務局)

【資料6：視察先（大木町）概要、資料7：視察先（みやま市）概要、
資料8：視察（大木町、みやま市）に係る質問事項（案）により説明】

議題(6) その他

(事務局)

今回の開催日は、1月11日（木）、大木町、みやま市への視察を予定しております。詳細のスケジュール、集合場所等につきましては後日文書をお送りしますのでそちらをご覧ください。

(委員)

質問事項を事前に提出するのであれば、事前にこちらから連絡した方がよいですか。

(事務局)

その件につきましても、文書に記載したいと思います。

6. 閉会

(会長)

以上で、平成29年度第1回ごみ減量化・資源化推進検討委員会を終了します。